

研究課題の名称

「人工膝関節全置換術後における超音波エコーを用いた視覚的フィードバックが筋収縮時の内側広筋筋厚に与える影響」

研究の目的及び意義

人工膝関節全置換術（以下, TKA）後は, 大腿四頭筋の筋力低下が生じ, 歩行, バランス能力に影響するとされる. これに対し, 術後早期から膝関節伸展等尺性収縮（以下, QS）がよく用いられる. ただし, 臨床場面において, 筋収縮が十分に行えているかを評価することは触診だけでは困難である. 近年, 超音波装置が筋収縮をリアルタイムで評価できるとされ, 変形性膝関節症（以下, 膝 OA）患者を対象に 8 週間の視覚的フィードバック（以下, VFB）トレーニングが筋収縮改善に有効であったと報告がある. しかし, TKA 術後早期を対象とした報告は少ない. そこで, 本研究では TKA 術後患者に対し超音波装置を用いた VFB が QS 時の内側広筋筋厚に及ぼす影響について調査する.

研究対象者の選定方法

対象は 2024 年 4 月から 2024 年 7 月までに当院にて TKA を施行された 4 例（男性 2 名, 女性 2 名, 平均年齢 81 ± 8 歳）とする.

予定研究期間

倫理委員会承認日から～2025 年 3 月